

湖畔

北海道立大沼学園

〒041-1355

北海道亀田郡七飯町字西大沼8番地

TEL 0138-67-2014

FAX 0138-67-2032

hofuku.onumagakuen1@pref.hokkaido.lg.jp

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/ong/>

「暗渠の精神」

園長 内田 智能

当園の野球部は、6月下旬に行われた全国少年野球大会東北・北海道地区福島大会で優勝し、8月30日～31日に行われた全国少年野球大阪大会に参加してきました。結果は、初戦で大阪市立阿武山学園に1対4で敗れてしまいましたが、子ども達は最後まで諦めず、大きな声を出し、精一杯頑張っていました。子ども達の感想や職員の思いは、それぞれの手記に譲るとして、その姿は本当に感動的なものでした。

さて、この野球大会に参加して改めて感じたことは、子ども達を成長させる「舞台（＝環境）」の大切さということです。試合が終わり、ベンチに戻ってきて、うなだれ、悔し涙を流した子ども達は、試合には負けたものの素晴らしい経験をし、確実に大きく成長したと思うのです。言い換えれば、この野球大会は、子ども達を大きく成長させる「舞台（＝環境）」になっていたということです。もちろん、「舞台（＝環境）」さえ整っていればいいというものではなく、大会に出場するまでの野球部の練習や日々の生活、それらを支えた職員の努力あってこそその成長であることは言うまでもありません。しかしながら、そういう「舞台（＝環境）」があることで、子ども達はモチベーションを持ち、大変な緊張感の中で持っている力を出し切ることが大きな成長につながることも間違いありません。

ここで思い出されるのが、北海道家庭学校第4代校長・留岡清男先生が「教護（児童自立支援）」の精神的支柱を表した「暗渠の精神」という言葉です。留岡清男先生は「暗渠は地の底に埋められています。表面から、眼でみることはできません。しかし、地の底にかくれている暗渠があるために、地上に播かれた種子が、腐すことなく、芽を吹き出し、花を咲かせ、実をみのさせることができるのです。人々の目には新芽の青さが見えます。花の美しさが見えます。豊かな実りが見えます。しかし、そういったものは、みんな、地の底に埋もれている暗渠のお陰だということを見抜く人は極めて稀であります。（中略）私たちは、いつも、暗渠であることの誇りをもちたいものだと思うのであります（留岡清男著『教育農場五十年』）」と説いています。

豊かな実りは「暗渠」のおかげ。留岡清男先生が説く「暗渠」には遠く及ばないにしても、私たち大人は「黒子」として、子ども達が健全に成長できる環境を作り、提供できるように努力して参りたいと思います。

最後に、本野球大会で子ども達を大きく成長させる「舞台（＝環境）」作りにご尽力いただいた大阪府立修徳学院の職員のみなさま、関係者のみなさまに深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

第74回全日本少年野球大会（大阪大会）を終えて

【職員作文】

全国少年野球大会について

児童自立支援専門員 藤田 怜

例年になく猛暑が続いた北海道も、ようやく涼しさを取り戻し、子どもたちも日常に心を落ち着かせ始めました。今年の夏は私が大沼学園に赴任してからの5年間で、最も長く感じました。そう感じさせてくれたのは、他でもなく子どもたちです。

今年、大沼学園は6年ぶりに東北・北海道地区野球大会で優勝を果たし、全国少年野球大会に進出しました。全国の舞台は大阪府、子どもたちは初めて行く大都市に目を輝かせ、新大阪駅に着いた途端、なぜか関西弁に訛っている子も現れました。ホテルは大阪に街を一望できる場所にあり、ご飯は普段彼らがお目にかかれないバイキング形式、彼らの気分は完全に上がりきっていました。

試合当日、試合をする球場に到着すると、シードの私たちが2回戦で対戦するであろう2チームが試合前のアップを開始していました。子どもらはすぐにそれを食い入るように見つめながら、緊張感を高めていきました。中には過緊張で周囲に棘のある発言をする子もあり、場所は変われども彼らはいつものどおりだと、少し安心しました。

しかし、試合になるとそうはいきませんでした。普段の練習でできていたことがなかなか上手く行きません。投手が打ち取った内野ゴロをことごとくエラー、溜まったランナーをヒットで返され4失点してしまいました。

4点差を付けられた状態で迎えた最終回、最後の大沼学園の攻撃です。ベンチはこの試合で一番大きな盛り上がりを見せ、最後の攻撃をもり立てていました。「頑張れ、いけるぞー」「あきらめんな」と味方を鼓舞している姿は、彼らが普段の学園での生活や、何より野球クラブの練習で学んで来たことを実践しているものでした。それをこういった場面で素直に表現することができていたことに、彼らの大きな成長を感じました。

結果は最終回に1点を取り返しましたが、思い及ばず4対1で敗戦となりました。ベンチでは涙を流す子、それを励ます子、その悔しい雰囲気を感じて静かにしている子など、様々な子どもたちの特性が現れていました。

正直なところ、私は敗戦しても彼らは悔しいと感じるだろうかと半信半疑でした。普段の学園生活では指導されたあと、何事もなかったように過ごしている姿がよく見られます。そのため、野球大会で負けたとしても、ケロッとして、「大阪観光できる」などと軽口を叩く子が現れるのではないかと思っていました。しかし、実際そこにあったのは、敗戦後、口を開くことなくただ呆然としている子どもたちの姿でした。

私はそんな姿の彼らに声をかけることができませんでした。声をかけたら、私自身が泣いてしまいそうだったからです。そんな自分に職員としての器量のなさを感じつつも、彼らの貴重な人生経験の場に立ち会えたことは、大沼学園職員として有意義な機会でした。このような機会を与えてくれた彼らには、心から感謝したいと思います。

【児童作文】

全国大会を振り返って

中3 ハルト

僕は、29日～31日までの3日間で大阪へ全国大会へ行きました。全国の舞台に立ってみて感じたことは、とにかくプレッシャーがすごくてそれに緊張が合わさって死ぬかと思いました。

全国ではとにかく声を出していこうと思いました。そのため周りに対して、ピッチャーに対して、そして攻撃ではバッターに対して緊張がほぐれる声かけ、場が死なないように最後まで声がかかるくらい出したいと思いました。

チームは負けて僕は死ぬほど悔しかったし、泣いてしまいました。でも、泣くほど悔しかったということは、それほど練習にも全力になって取り組んだ結果だと思えます。

次に全国大会に行って学んだことは、人は素の部分があるところが出てしまうのかと思いました。学園ではしないことをしてみたり、言わなくていいことを言ってみたりと一部の人達がそういうことがあったので、退園してからも大変になるんだろうと思います。

全国でよかったことは、チームで確認できていたし、ミスしてもだれも責め立てることはなかったので、いいチームにいられてよかったと思います。自分たちで行動し、動けるチームに成長出来たのは本当に良かったし、最後までやりきることができて良かったです。

最後に、監督をはじめとした寮の先生方、応援してくれた皆様、全国大会へ行ける計画してくれた関係者の方々、本当にありがとうございました。



8月28日、放課後。
大会前には壮行会を行いました。

期待や不安、緊張等、色々感じるものはあったのですが、12名の頼もしい背中です。



東北大会が終わった後に膝が痛くて病院に行きました。そしたら病院の先生に半月板損傷と言われました。そして、運動禁止と言われたときは、とてもおちこんだし、とてもつらかったです。

成田監督に半月板損傷と言ったら、僕のためにいろいろのメニューを考えてくれました。本当にありがとうございました。成田監督にスイッチヒッターをめざせばと言われてめざしますと言いました。左で打つのがうまくなるにつれ右も前より打てるようになりました。スイッチヒッターをめざして自分に得しかなかったです。



8月29日の朝の7時38分に新幹線に乗って、東京駅まで行きました。東京駅まで4時間くらい掛かりました。東京駅に着いたあとに、東京駅から新大阪駅まで2時間30分掛かって大阪に着きました。北海道との気温、景色、空気の何もかも全てが違く、この違和感が少し嬉しかったです。

主将のリクトがシードを取ってくれました。※1

1回戦目は大阪の阿武山学園対島根のわかたけ学園が戦いました。阿武山学園が11対1で勝ちました。俺たちの相手は大阪の阿武山学園とでした。疲れもあるから「勝てる」と思っていました。今思えば、強気なんかじゃなく油断だったんだと思います。そんな状態での試合でした。

先発はリクトでした。4回まで無失点で抑えてくれました。5回は4点を取られてしまいました。リクトの次はソラが投げました。1イニングを無失点で抑えてくれました。

僕たちの攻撃ですが、5回まで点が入らず、6回的时候に1点をいれたけど4対1でまけてしまいました。多分、俺たちは試合をやる前から気持ちでまけてたんだと思います。



全国大会を通して思ったことは、やる前から決めつけてはいけないということと、仲間を信じることの大切さを今以上にしました。全国大会で学べたことをこれからの生活にいかしていきます。

※1～トーナメント順は大会前に抽選を行いました。

僕は全国大会で経験したことがたくさんある。



一つは大阪の学園は強いということと、体が大きいということもわかりました。達成したことは、打ったことと出塁もして盗塁もしました。阿武山の応援で押し出しされそうになったけど、集中してできたと思います。惜しくも四対一で負けてしまったけど良いプレーだったと思います。

悔しくて、寝る前までもった涙も、とうとう出てしまい、本当に悔しかったです。それでもとても良い経験だったと思います。

ホテルに泊まったセイリュウというところは最高でした。食事はバイキングで色々な食べ物があり、その中でも串カツ、たこ焼などがメインでした。美味しかったです。浴場もホテルの浴場にしては大きいところでした。少し関係ないけど、大阪には美女が居ました。ホテルの食堂のお姉さんが可愛かったです。

そして、入園時の僕は野球が嫌いで、できなかったし、キャッチボールもできなかったが、東北大会そして全国大会と来て、あれだけ嫌がっていた野球なのに、サード、ピッチャーをやるということになって、成田先生も言っていました。「ノックを打って、転がってくるボールを怖がっていたコタロウにサードを任すとは思いませんでした」と言っていて、確かにそうだなと思いました。



そして最後に、負けたけど来年以降の後輩達に任せます。東北大会優勝して全国大会で優勝したという報告を待っています。

最終スコアは1-4。
みんな頑張りました。

学園の動向

令和5年4月～令和5年8月

4月

- 4日 着任（学園3名、分校5名）
買い物訓練（蛍雪寮）
- 5日 施設見学受入（函館児相）
買い物訓練（芝蘭寮）
- 7日 着任式（学園・分校） 運営会議
- 9日 理髪
M君ケース打ち合わせ（函館児相）
- 10日 係長主査会議
- 12日 職員会議・給食会議
M君許可外出（13日迄）
- 14日 K君入所（函館児相）
- 17日 支援会議・内科検診
令和5年度北海道児童相談所・児童福祉施設心理職員合同研修会出席
- 19日 医診
- 21日 K君ケース打ち合わせ（岩見沢児相）
- 23日 湖畔清掃 大沼公園駅前花壇整備
- 24日 避難訓練
- 26日 寮担当者会議
- 27日 K君入所（室蘭児相苦小牧分室）
- 30日 園外活動
（4月 入所2名 退所0名）

5月

- 2日 K君 函館児相来所面談
- 4日 園外活動（サイクリング）
- 5日 園外活動（釣り、函館散策）
- 6日 園外活動（映画鑑賞）
- 7日 園外活動（温泉入浴）
- 8日 係長主査会議
- 10日 運営会議
- 11日 職員会議
- 13日 K君 保護者来所面談
野球部練習試合（渡島支庁）
- 14日 理髪
- 15日 S君入所（旭川児相）・内科検診
- 16日 眼科検診
- 17日 I君・K君 苦小牧分室来所面談
環境整備活動・医診・給食会議
- 18日 耳鼻科検診
- 19日 支援会議・避難訓練
- 22日 寮担当者会議
- 27日 運動会
- 29日 買い物訓練（蛍雪寮・晩翠寮）
（5月 入所1名 退所0名）

6月

- 1日 野球部園外練習（北斗市運動公園）
- 3日 野球部練習試合（八雲中・野田生中）
- 4日 買い物訓練（芝蘭寮）
- 5日 鈴蘭谷分校授業参観 係長主査会議
- 7日 K君 許可外泊（9日迄）
岩見沢児相まで児童移送
運営会議
- 8日 職員会議
- 9日 A君入所（中央児相）
- 11日 理髪
- 12日 避難訓練
- 14日 支援会議 給食会議
- 16日 登山遠足（函館山）
- 17日 野球部練習試合（函館児相）

- 19日 内科検診
武蔵野研修出席（23日迄）
- 20日 K君入園（中央児相）
I君函館児相来所判定
K君函館児相来所面談
K君苦小牧警察署来園聴取（21日迄）
- 21日 医診
- 25日 理髪
- 26日 寮担当者会議
- 28日 T君 室蘭児相来所面接
温泉入浴
- 29日 全日本少年野球大会東北北海道大会
（福島県・30日迄） 優勝
- 30日 M君 苦小牧分室来所面談
（6月 入所2名 退所0名）

7月

- 2日 M君 親子交流（函館児相）
- 3日 係長主査会議
- 5日 園内環境整備 運営会議
- 6日 宿泊研修旅行（中2）～7日
K君 許可外泊（9日迄）
岩見沢児相まで児童移送・職員会議
- 10日 支援会議・内科検診
- 12日 給食会議
- 15日 K君保護者来園
- 17日 園外活動（大沼合同遊船）
- 18日 G君入所（中央児相）・避難訓練
- 19日 医診・寮担当者会議
- 20日 I君・K君 苦小牧分室来所面談
- 21日 理髪
- 24日 第1学期終業式
- 26日 I君 親子交流（函館児相）
函館心の里親会来園
- 27日 園外活動（キャンプ・30日迄）
（7月 入所1名 退所0名）

8月

- 1日 夏期一時帰省開始（14日迄）
- 2日 園外行事（映画鑑賞）
- 3日 赤井川村立赤井川中学校長来所面談
- 4日 園外活動（グリーンピア大沼）
- 6日 園外活動（函館野外劇他）
- 8日 園外活動（函館未来館）
- 10日 園外活動（グリーンピア大沼）
- 11日 芝蘭寮休寮（13日迄）
- 12日 園外活動（海水浴他）
- 14日 M君 函館児相来所面談
- 16日 運営会議・給食会議・医診
- 17日 市立名寄大学保育実習受入（29日迄）
- 18日 S君 旭川児相来所面談
- 19日 野球部練習試合（函館児相）
- 20日 野球部練習試合（渡島支庁）
- 21日 S君入所（室蘭児相）・内科検診
- 22日 係長主査会議
- 24日 第2学期始業式・支援会議
- 25日 職員会議
- 27日 理髪
- 28日 鈴蘭谷分校授業参観・寮担当者会議
- 29日 園外活動（温泉入浴）
- 30日 全日本少年野球大会（大阪府）
（31日迄）
- 31日 園外活動（温泉入浴・外食・買い物）
（8月 入所1名 退所0名）

皆様のご厚情に心より感謝申し上げます。

(4月1日～9月30日)

- ・高木俊明 様
 - ・(株)財津自工 様
 - ・美ヶ丘敬楽荘 様
 - ・宮村内科医院 様
 - ・澄マサノ 様
 - ・佐藤隆三 様
 - ・七飯更生保護女性会 様
 - ・高杉恵子 様
 - ・函館更生保護女性会 様
 - ・七飯大沼国際観光コンベンション協会 様
 - ・家村昭矩 様
 - ・大沼振興会 様
 - ・函館心の里親会 様
 - ・ALIVE 様
 - ・眞島尚子 様
 - ・高橋一正 様
 - ・(株)よしもりまきば 様
 - ・石栗 様
 - ・加藤浩樹 様
- (順不同)

行事予定

10月	14日	室蘭児相との施設連絡協議会
2日	15日	医診
10日	16日	業務指導監査
16日	20日	避難訓練
19日	22日	期末テスト(24日迄)
20日	26日	理髪
21日		
29日		
11月	12月	
1日	4日	授業参観日
2日	11日	内科検診
3日	19日	もちつき
6日	20日	医診
10日	24日	理髪
13日	25日	2学期終業式
	28日	冬期一時帰省開始



編集後記

4月、新緑の香りが学園を包んでいたかと思うのも束の間であり、夏があつという間に過ぎ去り、一気にあたりは秋のよそおいとなってきた。

駆け抜けるように過ぎ去る時の中で、流されてしまっていないか、子ども達と向き合っているのだろうかと自身を振り返ることもある。

今回、本誌を編集していて、子ども達が経験から学び、いろいろな事を感じて、各々の成長をしたのだなと感じる。「経験」することの大切さを改めて認識する。

時は有限である。「今、ここ」を大切にしながら、子ども達が各々のペースで成長できるよう、底支えをしたい。

自立支援課・鍵谷